
賄賂/沖銀

深海

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

賄賂／沖銀

【Nコード】

N6619A

【作者名】

深海

【あらすじ】

ふらりと現れては、銀時に甘いものを食べさせる沖田の目的は？

「くあゝ…」

大きく口を開けあくびをし、目の端に涙を浮かべる銀時。
読み終えたジャンプを机に置き頭の後ろで両手を組むと、机に足を
上げ呟く。

「はあ…刺激もないし、つまらない毎日だねえ…」

「旦那、邪魔しやすぜ」

扉から覗く沖田の顔を見るなり笑顔になる銀時。

「おっ、沖田くん。なにに、今日は何食わせてくれちゃうわけ？」

「そうですねイ…あんみつでもどうですか」

「いいねえ。さ、善は急げだよ沖田くん！」

来たばかりの沖田を急かしパーラーへと向かう。
沖田はフラッと万事屋を訪れては、銀時の好きな甘味をご馳走していた。

「いやあ、いつも悪いねえ。俺、沖田クンの事すっかり気に入っちゃったよ」

目の前に置かれたあんみつを幸せそうに食べる銀時を、沖田はじっと見つめていた。

「ん？ どーした沖田クン。食べないなら銀さんが食べちゃいますよー」

「今までののは全部賄賂でさア」

「は？」

ニヤリと笑う沖田の言葉が理解出来ずに、あんみつを食べる手を止

める銀時。

「俺も旦那の事気に入ってんでさア。だから今までののは賄賂。受け取ってたんだから俺のモンになりなせエ」

「はあ!？」

沖田は言い終わると席を立ち、わけがわからずに固まっている銀時の耳元に顔を近付けた。

「今夜、また伺いまさア……」

そい囁きあんみつの代金を置いて店を出る沖田。

銀時はしばらく固まっていたが、思い出したように沖田の分のあんみつも食べ始めた。

「ま、全くなんだっつーんだよ。賄賂だなんて知ってたら今までの食わなかつ……いや、食ってたか？」

刺激たつぷりの毎日が銀時を待っている。
甘い甘い賄賂を持って。

f i n

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6619a/>

賄賂/沖銀

2010年10月15日01時01分発行